

能登半島北部における海底地形調査結果

能登半島北西沖(領域1)の活断層南側の隆起を確認

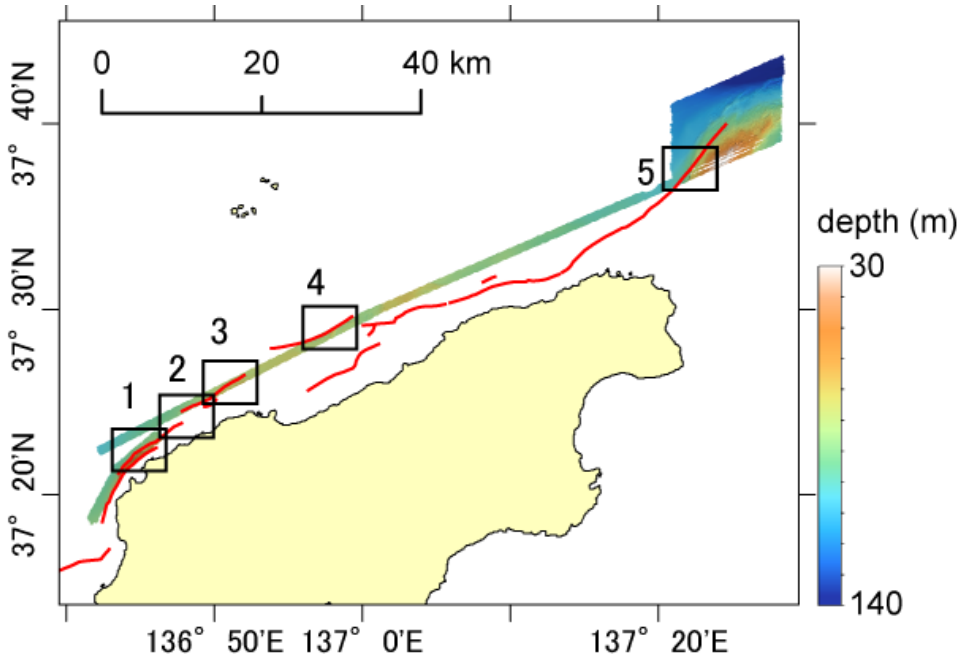


図3-a 能登半島北部における調査範囲。赤線は井上・岡村（2010）による活断層トレス。海底地形図はN135方向から光を当てている(以後の図も同様)

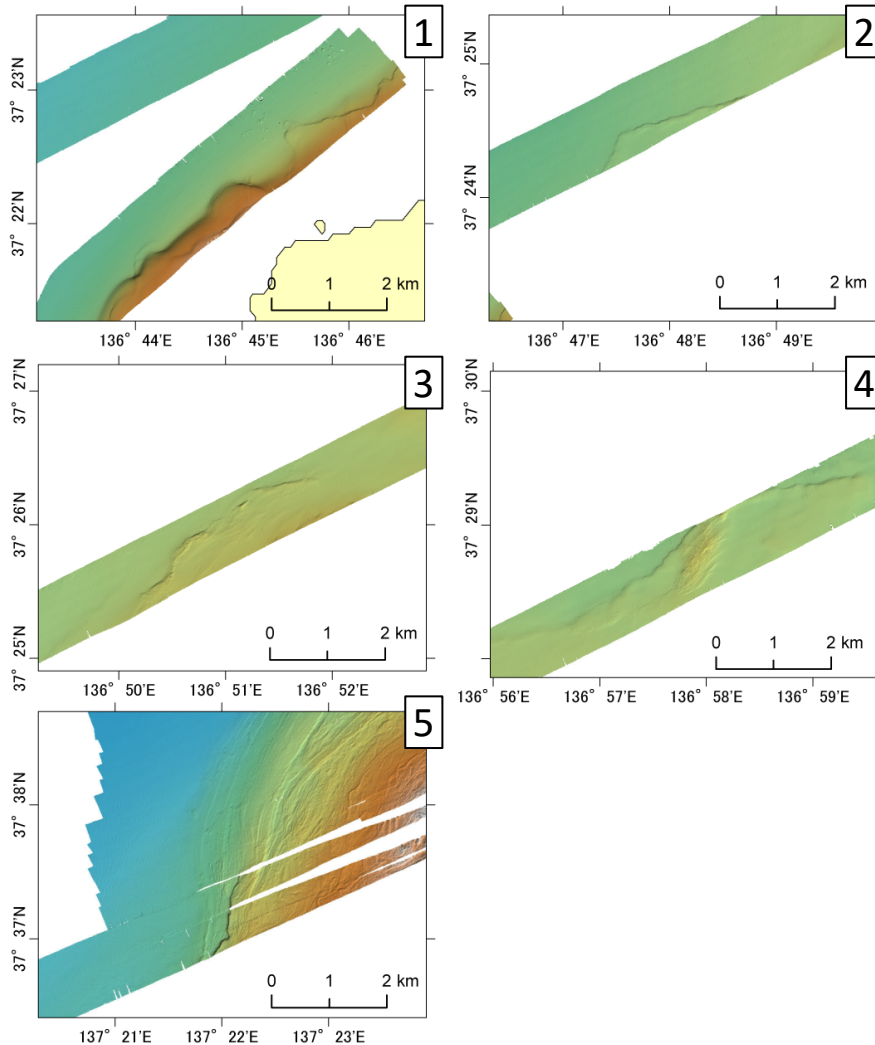
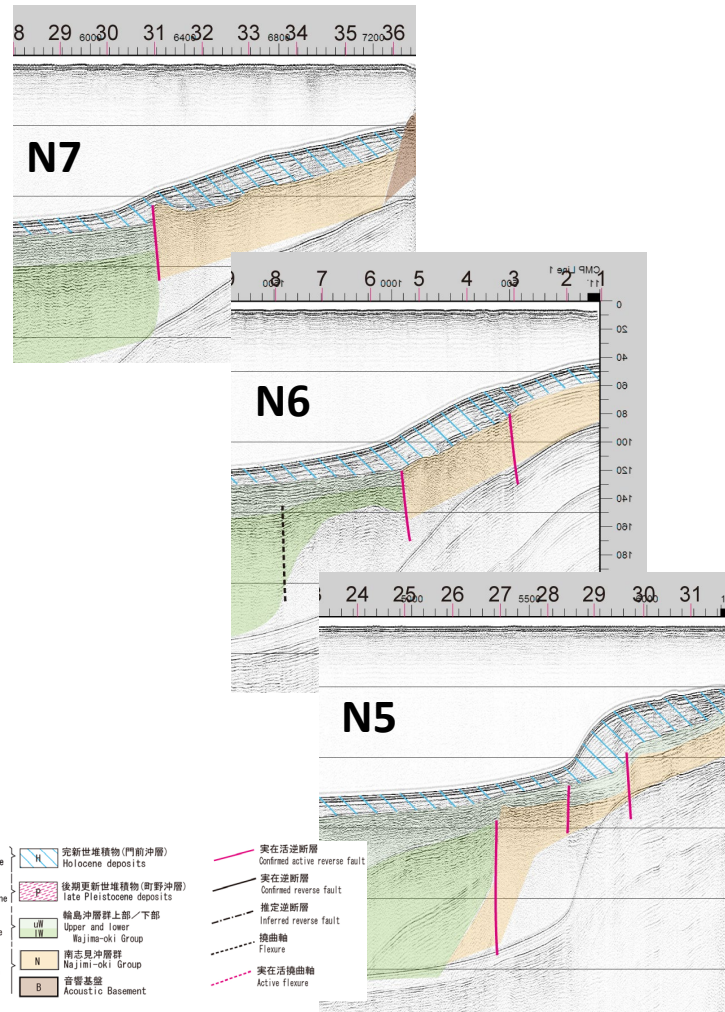
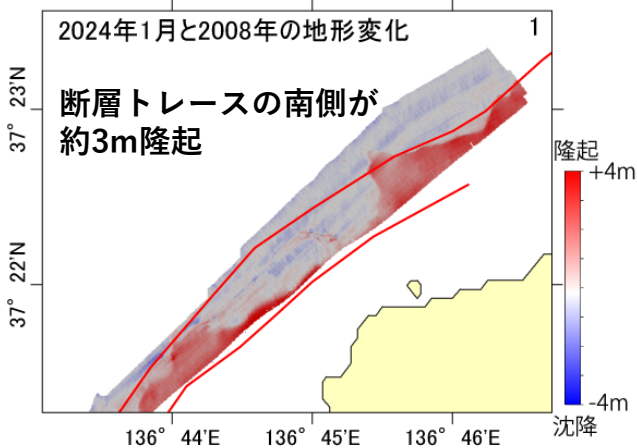
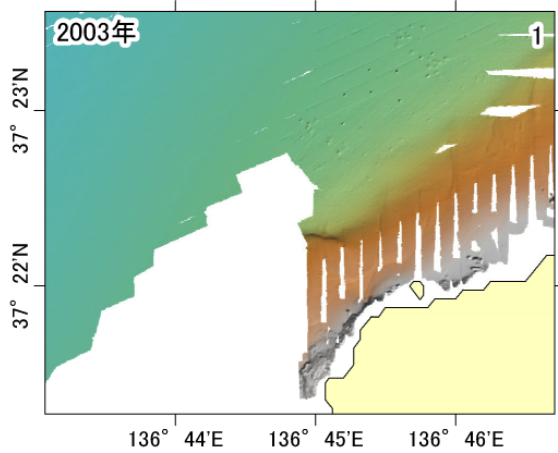
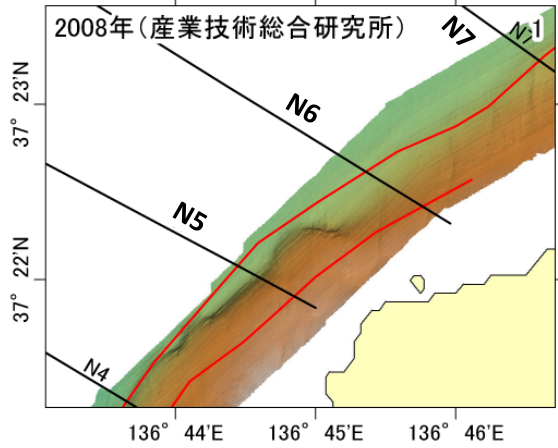
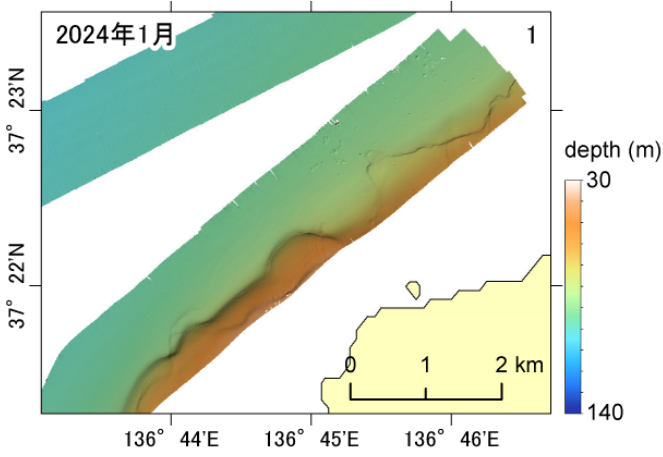
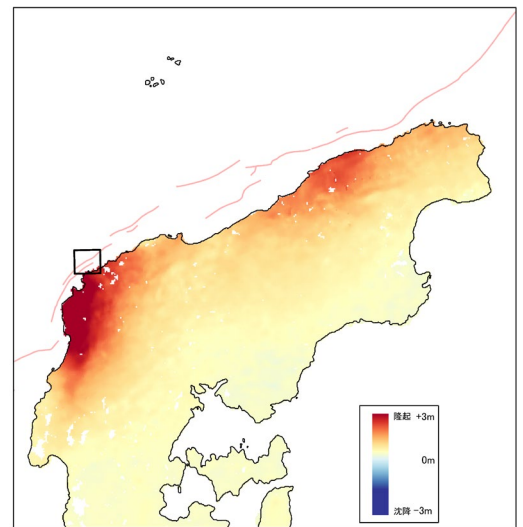


図3-b 図3-aで示した矩形領域の拡大図

領域1



参考図1 海陸シームレス地質情報集「能登半島北部沿岸域」における音波探査解釈断面（産業技術総合研究所）



参考図2 だいち2号観測データの解析による準上下方向の地殻変動(国土地理院)

図4 2024、2008年、2003年の調査による海底地形とその比較。赤線は活断層トレース。黒線は産業技術総合研究所の音波探査測線。産業技術総合研究所の結果は井上・岡村(2010)による。

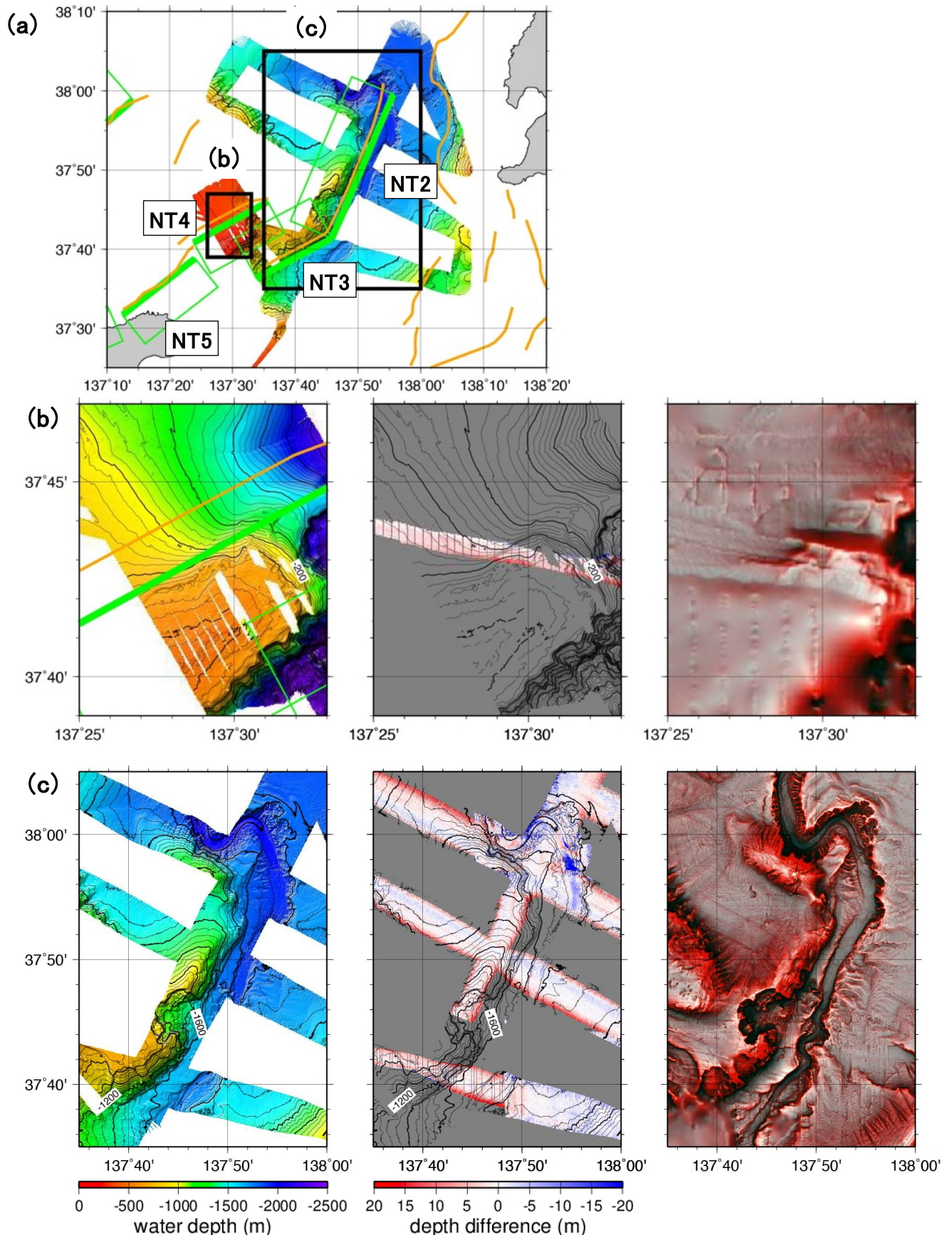


図2 : (a)白鳳丸KH-24-JE01航海で得られた海底地形データ。岡村(2019)による断層 (橙)と「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書 (2021) による断層 (NT1からNT6) (緑) を示す。太線四角は(b, c)で示す範囲。(b, c)NT4周辺 (b) ならびにNT2、3周辺 (c)の拡大図。海底地形 (左)、地震前に取得された海底地形データとの比較 (中) ならびに野他(2016)による赤色立体地図 (右) を示す。